

入魂式と納骨式の準備

お墓が完成すると入魂式（開眼法要）を行います。また、遺骨を納める法要儀式（納骨式）も同時にされる方がほとんどです。新規にお墓を作った場合、この二つの儀式を同時におこなうのが普通です。

「入魂式」はお祝い事です。家の新築と同じように考えてもけっこうです。

「納骨式」は仏事です。四十九日忌明けで納骨される方もあれば、一周忌や三回忌、中には十三回忌で納骨などという方もあります。遠い故郷から遺骨や土を移してこられて納める方もいます。この場合も納骨と考えてください。

儀式に要する時間は、寺院の読経も含めて約30分程です。お式の10分前には現地に集合してください。とくにお盆・お彼岸中は墓地周辺道路が混雑しますので早めに出発してください。以下準備についてご説明します。

（時 期）

入魂式をする時期は特に決まりはありません。お盆・お彼岸（春3月は春分の日を中心に一週間・秋9月は20日～26日の一週間）の期間中、故人の命日、年回忌の法要の日、大安の日などを選んで行うことが多く、特に日曜、祝日などの休日は、参列される方々にも主催者にも都合がよいでしょう。

ただし、お盆・お彼岸の期間中の休日は、式が集中しますので寺院も忙しく、依頼するのは早めのほうがよいでしょう

（服 装）

平服（地味なスーツ・白ワイシャツ・地味なネクタイ）が略礼装で充分です。入魂式も納骨式もあくまでも厳かな儀式ですから、赤や黄色などの派手な色合いの服装やジーンズなどの軽装は避けるべきでしょう。

（寺院へのお礼）

仏（遺骨）が無くても入魂式の場合には「お祝い事」ですから、紅白の金封に入れて儀式のあとで渡します。



納骨も同時に行う場合には、仏の没年から計算して三回忌くらいまでなら黄白の金封に入れて渡し、三回忌より古い遺骨の場合には、入魂式を優先して紅白で準備してください。

名目は以下のようにしてください。また、お礼とは別に「御膳料」「御草料」を添えることが多いようです。寺院によっては金額が定められていることがありますので注意してください。



表書きの例： 御礼・御布施・御膳料・御車代
礼金の標準（あくまでも平均です。）御布施2万円～5万円、御膳料5千円～1万円、御車代5千円～1万円

(お供え物)

季節の果物（リンゴ、バナナ、みかん、柿、梨など）を
2～3種類 1～3ケ お酒（大きさに決まりはなく、
二合、五合、一升のどれかのビン入り）1本。

小餅（入魂式のみの場合は紅白の丸餅、納骨も同時の場合
は白の丸餅）5～10ケ

お菓子（和菓子や袋入りの菓子）
1～3袋

ご家庭で使用中的お盆に盛り合わせて持参されましたら、
そのままお供えできて便利です。

お供え物をていねいにする場合

(海の幸) 昆布1～2枚、するめ1～2枚、わかめ1袋
など

(山の幸) 椎茸1袋、季節の果物（リンゴ、みかん など）
2～3種類 1～3ケ

(里の幸) 季節の野菜（人参、なすび、大根、いも など）
少しずつ

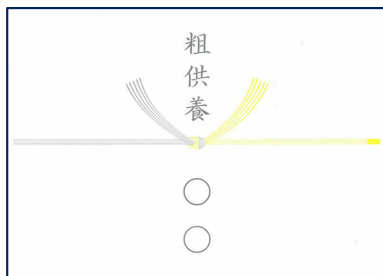
(その他) 小餅5～10ケ・お酒1本・白米・塩少々・
お菓子2～3袋

などをお供えされますが、墓地によってはお供え物を指
定されていることがありますから ご注意ください。



粗供養

お参りいただいた方への感謝の品と考えればよいです。粗供養品と呼ばれ
る品物を用意しておきましょう。「志」という言葉を用いる場合もありま
す。のし紙には白黒もしくは黄白の結び切りの水引のものを選びましょ
う。



線香

線香一束・ローソク1～2本を用意してください。念のため半紙5～6枚
も用意しておいたほうがよいでしょう。

供花

墓地の業者や花屋がない場合には、前もってお墓用に供花を
一墓あたり一対用意します。一対2千円～3千円程度の花で
充分でしょう。

神式では榊（さかき）を用意し、宗旨宗派によっては檜（し
きみ）だけをお供えすることもあります。

